

チャレンジ六年間

中間 秀夫

「何でもチャレンジ・友達っていいなあ。」
六年間に学んだ僕がとても大切にしている
言葉だ。

以前の僕は計算することが苦手で、算数
の授業が嫌いだっただ。計算しなければなら
なくても、すぐにあきらめて何もしないで
いた。

ところが、六年生になってからは、算数
の授業が終わっても、家に帰っても、菊間
先生から計算の課題がたくさん出た。「何で
もチャレンジだ」とあきらめそうになるた
びに言われ、僕は必死にがんばった。いつ
の間にか、速く計算ができるようになって
いた。それから、「やればできるんだ。何
でもチャレンジだ。」と思うようになった。
もう一つ。僕が一輪車に乗れるようにな
ったのは、健太郎君にコツを教えてもらっ

たからだ。「両腕を広げバランスをとるん
だ。」といわれた。もちろん自分でも練習し
たけれど、それから乗れるようになった。

五年生になると、
健太郎君にジラフの
乗り方を教わり、
僕の練習を手伝って
もらった。一輪車に
乗れるようになった
のは、健太郎君の
おかげだなあと思う。

自分だけだったら
一輪車の練習を
あきらめていたかも
しれないし、乗れな
かったかもしれないと
思うと、友達ってい
いなあと強く思った。

神余小で学んだこと
や思い出を忘れずに、
中学校でもがんばって
いきたい。今度は、
自分の力で自分自身を
成長させていきたい。

